

# 「白門祭」グラフィティー

## 来た! 見た! 撮った!



### ギャラリーの熱視線

「ワン・ツー・スリー・フォー……」。

中央ステージはチャリディングの饗宴。

動きのスピード、キレのよさ。手の上に佇立

して、そこからバック転のジャンピンググ！出

来ないことである。

まあみんな見とれる

わけだけれど、最前列にはおじさま方が多かったですね。カメラを構えてアメフトにも、おじさま方にもゲンキを与える、中大の華である。(香)

### 「プロレスの味方でチュ」

赤ちゃんがキャツキャツと叫んでいる。つぶらな視線に、レスラーも燃えて、ラリアートからバックドロップ、仕留めと大技のアラシ……。学生プロレス・ヒルトトップ協賛会場のベスト・シーンでしょうね!!次

ページ。

すこしまばらな観客席で、赤ちゃん

連れのご夫婦は遠野さん一家。日野市に引っ越してきていらい毎年白

門祭に足を運んでいるそうだ。初参加となる佑志ちゃん(9カ月)を連れての、プロレス観戦。

「学生プロレスを見るのが好きなんですよ。1年生から4年生まで、その成長を見るのが楽しみです」

と、お父さんは語る。プロレスされていたんですか？

「いや、僕はやりません。見る専門。痛いのがキライだもん」(瞳)

### 聞かせて、魅せて

アカペラサークル Do It your voiceのライブは、聞かせて、魅せて。1グループ5、6人の構成で、宇多田ヒカルなど近年のヒット曲からビートルズの名曲まで多くのナンバーを披露した。アカペラの「静」の固定観念を脱して「動」のステージを展開したグループもあり、飽き

ることのないステージに。なかでも  
“I've got life”を歌ったTAKES（タ  
ケシックス）のコーラスは、うっと  
りの出来栄であった。

サークルのメンバーは60人、5年  
前に発足した。白門祭初参加の山

義弘さん（総政・1年）は、アカペ  
ラの魅力を「みんなで練習してハモ  
れた時の感動と、歌詞にこめた感情  
が聴く人に感じてもらえるところ」

と言う。電子音と違って、ごまかし  
の効かない声のハーモニーは胸に染



で1時間で完売したそう  
だ。ペダ下の宣伝ポスターも6  
00枚用意したのに、「貼っ  
ては盗まれるイタチごっこ  
でしたよ」と責任者の梅田  
将志さん（総政2年）は苦  
笑まじりに。

プロジェクトコップ主催  
のコンサートは今年で6回  
目。6月中旬から、準備を  
進めてきたそう。そして、  
当日はクレセントホールを  
長い列がめぐり、「過去に  
例を見ないほどの盛り上が

み入ってくる。ステージを見て涙し  
た人も少なくないようだ。

12月17日にはクリスマスライブを  
予定。ライブに行ってみないと分か  
らない何かがありますよ、きっと。

（未）

### さくらんぼ

大塚愛のコンサートチケット約1  
300枚は多摩、後楽園キャンパス

り（商2・田村仁克さん）。  
「さくらんぼ」「あまえんぼ」「H  
appy Day」……キューتنا  
歌姫の愛らしさいっぱいのヒット曲  
全開に、ファンのボルテージもヒー  
トアップし、クレセントホールは「地  
鳴りがした」そうである。

「これからも、もっと盛り上が  
るイベントを企画していくのでプロ  
ジェクトコップに期待して下さ



「い」。梅田さんはもう来年の仕掛けを練っている。(未)

### くねる肢体

練習場所は全身を映せるものがあるところ。その確保が大変で、学校では昼時、セントラルプラザでみかけたりする。ごぞんじ、ダンスサークルのNAOKAN。ほかにも体育

館やCスクエア、チームによつては学校がしまつてから、深夜、学外のスタジオを借りたり、街中で適当な場所を見

ンテストに出場して、優勝しているチームも多いんですよ」と副部長の山ノ辺紀子さん(総政3年)。とはいえ、非公認のサークルなので、ま

### お笑いマラソン

青いハッピーの落研幹事長・平墳博之さん(商・3)は5号館の木戸口で呼び込みに大忙し。「やっぱり、4時間ライブはお客さんの出入りもあつて大変ですよ。でも、年配の方から学生さんまでたくさんの方に来ていただいてうれしんです」と愛想たつぷりに。4時間の間に22組が落語、コント、漫才をドンとやっちゃう趣向だ。

「お笑い百門亭」幕開けは、「花区園田」さんの落語から。「花区園田」さん、本名は園田啓太さん(法・1)。落研に入つてまだ8カ月、とは思えぬ話芸で何度も腹



ついたりしながら練習を重ねている。白門祭は、その成果を一般の方々に、お披露目の舞台である。

だまだ不便を感じることは多い。市民権獲得へ、足・腰の動きはなめらかに、さらに激しく……。(智)

「いろいろな大学生のダンスコ

をかかえました。「意外とお客さんも多くて、しかもフラッシュまで浴びて、びっくりしました」。私たちのカメラのこと



「今までも何度かやってきたけど、お客さんがとても近くて緊張しましたねえ」

4時間を3日間、17人の部員が……演るほうも観るほうも最後はクタクタ？。

(梨)

### 韓国留学生・プルコギ、チヂミ

「プルコギ、チヂミはどう？」「おちやくちやおいしいよ〜」

と威勢良く、ペデ上の食堂前で呼び込みをしているのは韓国留学生たちの出店、アーリーランドだ。



韓国の家庭料理、プルコギやチヂミを売っている。あの有名な冬のソナタのペ・ヨンジュンやチェ・ジウが貼ってある看板が印象的だった。

韓流ブームの本場の味を食べてもらおうと、気持ちを一つにしている。

「こっちの方がお徳よう〜」と勧めてくれたのが洪貞美ホンチョンミンさん(文・1)。プルコギやチヂミの説明をしてくれた。

「みんな、留学生だからひとり暮らしだから、家族みたいですよ」

テントの中では韓国語が飛び交い、写真撮ってもいいですか？の一言で

みんなが集まった。

まるで本当の家族のような結束をみせてくれて、とてもうらやましくなった。

(梨)

### 精神一到

「炎の塔」は静かであった。いつもとまるで変わりなく。一心不乱に勉強にいそしむ。名物「せかパイ」や「男の操」を知らない人も多いただろうな。「きょうは学祭ですが……」とインタビュしたら「そうらしいね〜」と関心なさそうな答えが返ってきた。

(成)



### 揺れる炎、カクテルの味

ローソクの灯がゆれるカウンタ―にはカップルや男3人組、テーブルではいま知り合ったような男女4人の華やいだ合コン……。白のYシャツに黒のチョッキのバーテンダーがカクテルの腕をふるうバー「ARAKISS」(7号館3階)。SF研究会が運営する。20年以上の伝統をもち、毎年、新たなバーテンダーを養成するため、後期から週2回の練習



会で腕をあげ、実際にバーに行つてオリジナルカクテルも考案する(1杯300円)。本格的なのである。

「というのに」とこととしてバーテンドーを卒業する商・4塚田敦之さんはぼやいた。01年度から学祭中は原則、禁酒措置がとられている。白門祭実行委員会の下、例外的に「ARAKISS」の「営業許可」が目下は「ささやかな成果」なのである。受付での年齢確認、救護室の設置、

パンフレットには泥酔禁止の案内も挟み入れた。

「飲酒規制の厳しい中、唯一、飲酒店を出店できたことはうれしかったが、飲酒の規制を緩和させて欲しい」と塚田バーテンドーはシェーカーを振りながら言った。

## 「陶工」冥利

(成)

約1000点もの焼き物が並ぶ陶芸研究会の恒例市。常連さんもある。紙袋が必要なほど買っていく。「趣味が合うのね」と、ひいきの学生の名前で選ぶ人も多い。「陶工」冥利に尽きる、というものであ

る。(智)

## 「心めいば伝えしよ

図書館下展示室、ぼつねんと受付嬢がふたり。花が活けられ、また優



美な書が飾つてあるというのに。出店の喧騒に流れる人よ、足を止めて、華道会・書道会の世界へおいで、お願い。

## 「先生、僕死ぬんだ」

(香)

Cスクウェアの水谷修氏講演会(1日)はほぼ満席。「覚せい剤はまじめで優しい子ほどはまっていく」。水谷氏が「私が殺してしまった生徒です」と言って話す子どもたちは、その優しさゆえに覚せい剤に蝕まれ

てしまった子どもばかりだった。水谷氏のところには毎日たくさんメールがよせられる。「先生、今日僕死ぬんだ」。こう書いてきたのは、小学生の男の子だった。この世には、私たちが小説で読むような世界が実在しているのだ。

途中、水谷氏の生徒が壇上に上がった。ドラッグをやっていた人だ。でも、外見からはそんなこと微塵も感じさせない。「ドラッグをやつて、全てを失ってしまった」。ドラッグをやめて数年たつたが、彼の戦いはまだまだ続いている。

「夜回り先生」は暗がりを歩く。写真まで、暗がりになってしまったので割愛。ゴメン。(智)

## 宮沢賢治ワールド

祭りのなかの、和やかな宮沢賢治ワールド。絵本喫茶『ほうきぼし』(児童文学研究会イーハトーブ)。手作りのクッキーとケーキも味わえる。お茶もいろいろ、もちろんオ





リジナルブレンドだ。カモミールは『月夜の眠り姫』、アツプルシナモンティーなら『星空の船旅』……。ネーミングの妙は文・国文3年の猪越慎介さん。注文したのになかなか出てこない……ひよっとしてここは『注文の多い料理店』？ マサカね、冗談です。(智)

### 「一番高価な石はどれ？」

地学同好会のメンバーが多摩川や奥多摩にいつて拾ってきたざくろ石や黒曜石、水晶の「無料お持ち帰り



サービス」に小学生も多数。真剣なまなざしで選んでいるのは竹内郁弥君と浜松雅裕君。多摩市一ノ宮からお母さんにつれられてやってきた国立学園小学校の4年生。中大生が行い、中大生自身が楽しんでる印象を受ける「白門祭」にも地域の人々はちらほらいらっしやいました。(香)

### 「この長い列は何？」

「△男の操▽って知ってる？」  
「あー、あれ有名っすよね〜」



トをもらって中に入った。照明は薄暗く、ところどころにライトがこもす、

今年で20年のオカマバー。ウカツにも記者は中大3年目にして知ったのだが。  
4月のサークル勧誘でスカウトするらしい。△操▽というからには美男子が……でも詳しいことはヒ・ミ・ツらしい。

「くせになって毎年来てくれるお客さんもいるのよん」とアリスちゃんはいう。受付で席を予約し、チケッ



なかなかいいムード。1テーブルに1人のオカマちゃんがついてトークしてくれる。盛り上がるか、おかまちゃんの力量がためされるところ。

20分のトークのあとはショータイム。「エリー！」おしる子ちゃん！。声援あびて、オカマちゃん、踊る、わらかす。6号館の1教室に舞台(お立ち台)やテーブルが入り、約30人の客で、もうムンムン。外に出ると、また長い列ができていいる大盛況のオカマバーであった。(香)



棒術の気合い



居合の殺気



人形の怨念



after パイ投げ



オトコの操

# 変身する愉悦